

[野菜部門 令和7年度 参考となる研究成果]

事項名	自作できる青森農総研型いちご高設栽培ベンチの構成とかん水・施肥方法		
ねらい	いちご高設栽培について、夏秋どり作型で安定した収量を確保できる高設栽培ベンチの構成とかん水・施肥方法を明らかにしたので参考に供する。		
内容	<p>1 青森農総研型いちご高設栽培ベンチの構成（図1、図2、表1）</p> <p>(1) ベンチの構成</p> <p>(ア) 高設の骨格部材は、直管パイプ、クロスワン等を使用し、自作で組み立てることができる。</p> <p>(イ) 栽培槽は、サンポリ社のゆめ果菜恵を用いる。</p> <p>(ウ) 培地は、テンダー社のいちご専用培土青森型を用いる。培地量は1プランター当たり30Lとする。</p> <p>(エ) 高設ベンチの部材費は、1m当たり3,450円で、100坪のパイプハウス1棟当たりベンチ長245mでは、845,250円である。</p> <p>(オ) 組み立てにあたっては、青森農総研型いちご高設栽培ベンチ作製マニュアル（青森県産業技術センター農林総合研究所ホームページに掲載）を参考にする。</p> <p>(2) かん水・施肥方法（表2）</p> <p>(ア) 培地は定植前に十分に湿らせておく。</p> <p>(イ) かん水は、点滴チューブを用い、pF1.7～1.8をかん水開始の目安とする。</p> <p>(ウ) 1回当たりのかん水量は、プランター下部から排水がしたたる程度を目安とする。</p> <p>(エ) 施肥は、OATアグリオ社のタンクミックスF&Bを使用する。</p> <p>(オ) 定植後～収穫開始花房出蕾期は、給液EC0.3～0.6 dS/m、2～3日間隔でかん水を行い、収穫開始花房出蕾期までに生育量を確保する。</p> <p>2 その他栽培上の留意事項</p> <p>(1) かん水の過剰により地表面にコケが発生する場合や不足で過乾燥になると生育にバラツキが出るため、かん水の間隔を調整して常時適湿を保つ。</p> <p>(2) 培地洗浄は、果実品質低下時や排液EC及びpHが給液よりも高い時に、原水でかん水して排液EC値が原水EC値と同等になるまで複数回培地をクリーニングする。</p>		
期待される効果	夏秋いちご高設栽培の安定多収生産が期待できる。		
利用上の注意事項	収穫開始花房出蕾期以降における品種毎の給液EC濃度の制御方法や管理方法は、令和7年度参考となる研究成果「いちご「夏のしずく」の夏秋どり高設栽培の栽培管理方法と収量性」や「いちご「すずあかね」の夏秋どり高設栽培の栽培管理方法と収量性」を参考にする。		
問合せ先（電話番号）	農林総合研究所 花き・園芸部 (0172-52-4341)	対象地域 及び経営体	県内全域のいちご作付経営体
発表文献等	令和5～6年度 農林総合研究所試験成績概要集		

【根拠となった主要な試験結果】



図1 いちご高設栽培ベンチ

(令和6年 青森農総研)

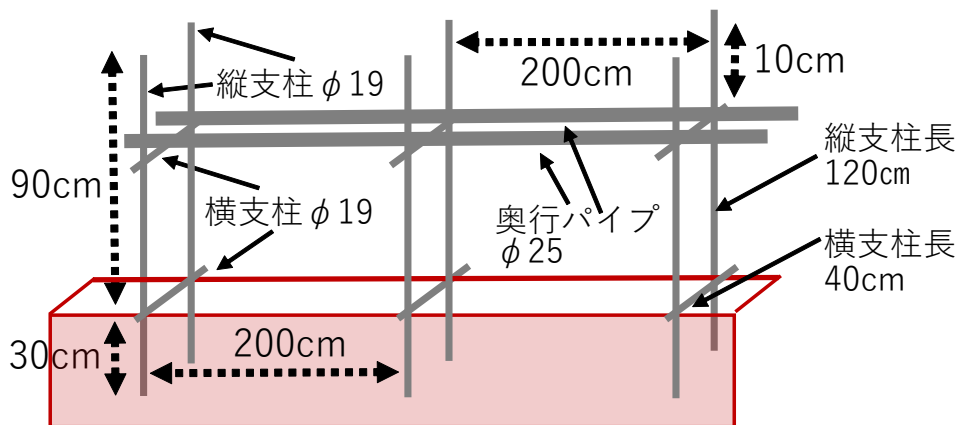


図2 農業用直管パイプでのベンチ組み立て参考図

(令和6年 青森農総研)

表1 いちご高設栽培ベンチの部材一覧

(令和6年 青森農総研)

No.	部材名	用途	ベンチ2m当たり				メモ
			単価(円)	数量	単位	価格(円)	
1	ゆめ果菜恵	プランター	1,000	2	個	2,000	株式会社サンポリ
2	いちご専用培地	ヤシガラ、ピートモス、軽石等	900	2	袋	1,800	1袋33L入り 株式会社テnder
3	クロスワン25x19	直交止め金具	55	2	個	110	
4	ロックマン19x19	直交止め金具	28	6	個	168	株式会社アコー
5	ユニチカラブマットU	吸水布(点滴チューブ下敷き)	760	0.16	m ²	122	8cm×1m 50m×1mで38000円
6	ユニチカラブマットU	吸水布(排水促進)	760	0.036	m ²	27	2cm×15cm 50m×1mで38000円
7	φ25mm直管パイプ	奥行方向パイプ	250	4	m	1,000	5.4mで1350円
8	φ22mm直管パイプ	中ジョイント	223	0.22	c.m	49	5.4mで2個 30cm×2 5.4mで1200円
9	農P0フィルム0.15mm	排水シート	32	2	m	64	37.5cm幅×2m 75cm×100mで6429円
10	フラワーネット15cm×2目	排水シート受け	25	2	m	49	100mで2470円
11	ラクラクハンガー	果実受け	99	2	個	198	株式会社アコー
12	φ19mm直管パイプ	縦支柱	154	2.4	m	370	1.2m×2本 5.4mで827円
13	φ19mm直管パイプ	横支柱	154	0.4	m	62	40cm×1
14	φ19mm直管パイプ	沈下防止パイプ	154	0.4	m	62	40cm×1
15	φ19mm直管パイプ	排水シート固定用パイプ	154	4	m	616	
16	ドリルねじステンレス	ズレ落ち防止ビス	34	2	個	68	ドリルネジM5×13
17	結束バンド	フラワーネット固定用	4	28	個	112	15cmおきに固定
18	19mmバッカー	フィルム固定	0.1	35	個	4	1ベンチに2個
19	ロングホルダー	フィルム固定	3	6.3	個	19	20cm 3mで95円
			小計(2m当たり)			6,899	1m当りでは3,450円
			100坪当りベンチ長245m			845,250	ベンチ長49m×5列を想定

(注) 1 資材費は令和5年における参考価格(送料及び消費税抜き)。

表2 培地及び施肥方法が収量へ及ぼす影響

(令和5年 青森農総研)

培地 種類	給液方法 前半-後半 (dS/m)	収量 (g/株)									商品果 率 (%)	10a換算 (t/10a)
		6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計			
いちご専用培土 育苗1号	0.3-0.6	全果	2	145	255	113	113	126	44	797	62	4.6
		商品果	2	138	162	57	76	53	12	498		2.9
	0.6-0.3	全果	0	172	315	140	142	133	43	944	64	5.5
		商品果	0	156	210	70	90	65	10	601		3.5
いちご専用培土 青森型	0.3-0.6	全果	2	161	230	145	134	119	36	827	61	4.8
		商品果	2	151	145	74	76	47	7	502		2.9
	0.6-0.3	全果	0	179	300	125	121	107	37	869	64	5.1
		商品果	0	167	207	73	69	30	9	555		3.2

- (注) 1 培地はテnder社製。配合原料はいちご専用培土育苗1号がヤシガラ、ピートモス、鹿沼土、十和田砂、赤玉、ゼオライト。いちご専用培土青森型がヤシガラ、ピートモス、十和田砂(増量)、赤玉、ゼオライト。
- 2 給液方法は前半が収穫開始花房出蕾期～8月末まで、後半が9月～収穫終了まで。
- 3 商品果収量は6g以上の市場出荷規格に準じて集計した。

耕種概要(表2)

- 1 調査場所 : 農林総合研究所
- 2 供試品種 : 「すずあかね」、前年採苗の冷蔵裸苗(ホクサン社から送付)
- 3 栽培様式 : 青森農総研型いちご高設栽培
- 4 定植日 : 2023年4月5日
- 5 栽植様式 : 株間28.5cm、条間15cm、2条千鳥植え、畝幅(ベンチ間隔)120cm、5,833株/10a
- 6 環境制御 : ハウスサイド自動開閉制御(春、秋季10℃設定、夏季常時開放)、無加温、CO₂施用無
- 7 培地量 : 4.28L/株(1プランター7株当たり培地量30L)